
赤信号、みんなで渡れば怖くない。

?夢兎?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤信号、みんなで渡れば怖くない。

【Zコード】

N7794P

【作者名】

?夢兎?

【あらすじ】

仲良し(?) 3人組のトリップ小説。

§設定§

主人公設定

主人公1

珀月 瑞華 ハケヅキ ルカ 女

男女。 16歳

武器：銃

主人公2

柴崎 杏菜 シバザキ アンナ 女

毒舌。 つてか言動が刺々しい。

16歳

武器：双剣

主人公3

赤井 五月 サツキ アカイ 女

突っ込み担当。奇人変人。変態。

武器：弓矢

：はい、軽ーく主人公設定ですね。すげー基本的なコトしか書いて
ねーけど 笑

一応これで頑張るつもり…、うん、変な追加入るかもしないけど。
笑

つてか、今見て思った：

タイトル全く関係なくね！？

まあ、頑張つて関係を深めよつと思います。はい。

：すんませんでした。

銀網をみたらネジが回ってるか確認し。

赤井 side

ある日の下校中、

杏菜「ん…何アレ。」

…」ほん、失礼。もう一度言います。

ある日の下校中、めちゃめちゃ光り輝く銀網を発見しましたです。

瑠華「うーわ、何アレ。すっげ。おい赤井、お前ちょっと落ちてこ
い。」

五月「いや何でだよ…!…?」

と、僕にいきなりクソハードなミッションを与えて来た俺様オーラ
全開の人は、
瑠華さん改め、珀月瑠華さんです。

怒ると怖いんですよー? …怒らなくても怖いけど。

杏菜「ダメだよ、瑠華。そんなこと言つたら五月が可哀そひじやん。」

「

五月「あ、杏菜」

やばいです、あの杏菜さんが僕の味方をしてくれます……（）
キラキラ

杏菜「やつぱ口は本人の為にも、いきなり後ろから突き落とさな
きや可哀そうじやん？」

ほら、五月は変人だからそういうのきっと喜ぶよ。」

ですよね……（泣

五月「いや待て……ちよつと待て……」

瑠華・杏菜「あ？ だよ／何？」

五月「僕は変人でもないです……ましてや、あんなとこに落ちたく
ありませんっ！」

さあ一つ、僕の魂の叫びを受け取れっ！！

瑠華「…。いーからわざと行けや………（怒）
「

げしつ

背中をけられ、ただ倒れるだけだと想つていたのですが…

杏菜さんが銀網を外していたんですよー、あはははは。

このやうつーと思い、二人の服の裾を思いつき引つ張つたーー（
後で殺られるなー。）

そして、

背中に衝撃や痛みを覚える事もなく

ふかーいそこには沈んでいましたとさ。

めでたしまでたゞ（瑠華「終わるかーーー。（怒）
「

べはつーー

出行く時は方位磁石をお忘れなく。

珀月 side

瑠華「いでで…、」のドカスがああああ…（怒）

馬鹿（赤井）に服を引っ張られ、杏菜とともに銀網に落ちた俺。

とりあえず赤井を蹴飛ばした。

五月「いつた――――――！」

あ、吹っ飛んだ。

杏菜「マジお前ありえないわー…ちょ、こいつペんマジ死んでよ。」

五月「え…？ キャラ変わつてねえ……？」

戻つて来んのはやつ…？

瑠華「…まあ、馬鹿（赤井）は放つておいて…、口々何処だ？」

田の前には、木、木、木。

杏菜「山…森かな？」

五月「すつげーーー日本??ねえ、□□日本ーーー(せいかせいか)

うわー…テンション高。うぜ。

杏菜「日本じゃないだろーね…。ほら、この木、日本には生えてないじやん？」

そういうて木を触りだす杏菜。うん、俺全く分かんねーけど。

瑠華「まあ…とりあえず、探検開始ー。」

拾つた棒を持つてぶんぶん振り回しながら歩く。

五月「瑠華さん…疲れたよー…」

しばらく歩いてると、赤井がぶつぶつと文句を垂らしあげた。

うん、
無視。

五月「ちょ、何で無視するこ…………えつ！？」「

いきなり絶叫して固まつたぞコイツ。何があつた。

おもわず、赤井の目線の先に目をやる。杏菜も同様だったようだ。

瑠華「……城？」

目の前には、**でかい城。**やつべ：でかつ！

五月「すゞ」— いつ！— すゞ いすゞ いすゞ い！— ね、ね、入る？入る！？（きらきら）

テンションMAXで城に駆けて行く赤井。ガキかよコイツ。

しかたねえなあ、と言つた様子で杏菜と後に続く。

そして、赤井が門をくぐった時…

ヴーーーッ ヴーーーッ ヴーーーッ

瑠華、杏菜、五月「「「！」！」？」」」

いきなり、警報音が聞こえた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7794p/>

赤信号、みんなで渡れば怖くない。

2010年12月31日19時00分発行